道岳連だより

広報　NO.７２
平成２６年８月２８日
北海道山岳連盟

ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｈｏｋｋａｉｄｏ－ＨＡＡ．ｎｅｔ／

個人会員制度導入決定・第３期小野体制発足

平成２６年度総会(第６２回)は、去る５月１１日(日)札幌市民ホール第１会議室において、２３の山岳連盟・山岳会の代議員（委任状１７)、会長推薦理事３名および鎌田・澤田両顧問出席のもとに開催された。

会長挨拶の後、議長に十勝山岳連盟小野寺章吾氏、千歳山岳会為野宜己氏が選出され議事に入った。１号議案「平成２５年度事業報告」２号議案「平成２５年度決算報告」３号議案「監査報告」が承認された。４号議案で、残念ながら士別山岳会、秩父別山岳会、函館岳友会、芦別山岳会の４団体から提出されていた連盟からの脱退願が承認された。主な理由は会員数の減少・老齢化と運営の困難性であり、大変残念な結果になった。

５号６号議案の「２５年度を振り返って」と「２６年度に向けて」は一括して理事長から説明がなされた。「振り返って」では、山岳指導員の活躍の場が徐々に広がりつつあること、連盟事業への参加者が漸増、トレラン参加者が急増、および普及事業をまとめたリーフレットの好評などがある一方、連盟の情報が末端まで流れない一部の団体の現状、連盟事業における二件の遭難事故の反省などが挙げられた。

「２６年に向けて」では、連盟事業への傘下団体の分担協力(会場確保や当該地域の渉外など)の要請、新たな事業として「山岳団体実績・研究発表会(仮称)」の新設、連盟収入の増加のための事業参加者の増加要請、歳出の抑制、連盟事業全体を掲載したリーフレットの作成などが説明され、合わせて山岳指導員活動のより一層の拡大、ＳＣ指導員の講習会・研修会の要望が出された。

個人会員制度導入 決定

９号議案は、前年度第３回理事会(３月１６日)で承認された「個人会員制度導入」について審議された。理事長から全国の状況、検討委員会経過などの説明があり、次の二つの提案がなされた。
①道岳連において、未組織登山者を把握し、安全登山・自然保護の啓発を図るために「個人会員(仮称)」制度」を発足させたい。
②道岳連ホームページに加盟山岳団体一覧(団体名・事務局・担当者・電話・メールアドレス・ホームページの有無)を掲載したい。

二つの提案とも異議なく決定され、道岳連としては画期的な事業が発足することとなった。

引き続き「個人会員制度」発足に伴う「道岳連規約」の改正審議に入った。その基本的な改訂部分は、道岳連の組織(第５条)を、従来の①道内の山岳団体②道内の学生・生徒の体育総合団体に、③道岳連の趣旨に賛同する登山を愛する個人を加えたことである。

ただし、「個人会員」についての入会資格・加盟

金・活動内容などの詳細は、「個人会員制度細則(仮称)」として別に定めることになり、特別委員会がその検討に入ることになった。事実上の個人会員制度の発足は、細則が出来上がり理事会(場合によっては臨時)の承認を得た時点となる。

第３期 小野体制発足

１０号議案「役員改選」は次の通り承認され、第３期小野体制が発足した。

会　長　小野 倫夫氏　えぞ山逍会　　留任
副会長　土屋　 勲氏　旭川山岳会　　留任　　佐藤　 眞氏　札幌山岳連盟　留任
　　斉藤 邦明氏　十勝山岳連盟　新任
監　査　宮西　 博氏　美唄山岳会　　留任　　苅谷 勝利氏　下川ＣＣ　　新任

副会長の太田 紘文氏は、顧問に就任した。

平成 26 年度 第１回理事会

総会に引き続き第１回理事会が開かれた。

初めに、この理事会の位置づけについて小野会長から総会の後にあるのは不自然と矛盾が指摘され、今後検討をすることになった。

第１号議案として、平成２６年度の常任理事が小野会長より次のように推薦され、承認された。理事長 神山 健(えぞ山逍会 留任) 副理事長 明田 通世(札幌山岳連盟-ロビニア 留任) 常任理事-総務委員長 荒堀 英雄(十勝山岳連盟-新得 留任) 常任理事-指導委員長 藤木 晴夫(室蘭山岳連盟-登別 留任) 常任理事-普及委員長 秋元 笻男 (札幌山岳連盟－札幌山の会 留任) 常任理事―海外委員長 工藤　寛(レインボークラブ 留任) 常任理事-競技委員長 山納 秀俊(道フリークライミングクラブ 留任) 常任理事-自然保護委員長 内藤 美佐雄(美瑛山岳会 留任) 常任理事-ジュニア委員長 八柳 正史(苫小牧山岳連盟-静雲 新任) 常任理事 石井 昭彦(旭川山岳会 留任) 常任理事 益田 敏彦(札幌山岳連盟-札幌山の会 留任) 常任理事 橋村 昭男(えぞ山逍会 留任) 常任理事 築田 一夫(えぞ山逍会 留任) 常任理事 石川 孝一(苫小牧山岳連盟-王子 新任) 常任理事 一安 敏文(道リークライミングクラブ 新任) 常任理事 横山　温(室蘭山岳連盟-蘭友登高 新任) 事務局長 明田 通世(札幌山岳連盟 兼任)

要望として、岩見沢岳連の佐藤 健氏から、女性役員の登用と常任理事の検討委員会の設置が出されたが、女性については今後の検討に、検討委員会については採用されなかった。

第２号議案は、連盟加盟の各山岳団体の加盟金の確認がなされた。

行事･各委員会事業報告

日高登山研修所開き・安全登山研修会　4/19-20

平成 26 年度の日高研修所開きと安全登山研修会は、４月 19-20 日の両日研修所・千栄生活館、周辺の山で、研修所運営委員も含め 66 名が参加して開催された。

一日目は、研修所内外の大掃除のあと生活館に移動し、神山理事長が「山の気象情報・観天望気あれこれ」と題し、映像を交えて山岳における雲を中心とした観天望気について講義した。その後各委員会会議、指導員全体会議をそれぞれ開催。終了後は札幌山の会の皆さんが準備した夕食を囲み懇親会に移った。

二日目は、絶好の春山日和となり、幌内丸山(スノーシュー)、上滝山(スキー・スノーシュー)

ボルダリング(室内)、応急手当グループに分かれて研修を行った。

指導委員会全体会議

上滝山スキー班

日高登山研修所開き・安全登山研修会に参加して　　富良野山岳会　高見 直弘

昨年度、指導員(アルパイン)要請講習を受講してなんとか検定を終えることができました。この研修所開きには、受講生の仲間たちもたくさん参加しており、思い出話に花が咲き、互いの頑張りをたたえあうことができました。

土曜日は研修所内外の清掃、神山理事長から山岳気象と観天望気についての講座、指導委員会全体会議に参加し学習を深めることができました。そして、懇親会では札幌山の会のみなさんのおいしい食事をいただきながら、全道各地で活躍しているみなさんと楽しい山の話に多くのことに気づき、考え、たくさんの元気と活力を分けてもらうことができました。

翌日の登山研修は指導員講習で同じグループだった仲間が「上滝山」リーダーに指名されたので、付き合って迷惑かけないよう頑張ることにしました。ブッシュの込んでる中でのスキーに自信がない自分は、スノーシューで登ることに、6 名のスノーシューチームの中で自分は年齢も経験も一番未熟です。リーダーを中心に先輩たちの健脚とルートファインディングに導いてもらい急な斜面も難なく登り、3 時間かけて「上滝山」頂上に到達しました。まもなくして山スキーのみなさんも次々と山頂に到着。雲ひとつない穏やかな晴天のなか、360 度見渡す山並みに疲れも吹き飛びました。下りも盤石なチームワークで声を掛けあい問題なく安全に下山することができました。

全道各地の山岳会で山を愛し、活躍しているみなさんと言葉とお酒を交わしながら楽しい時間を過ごさせていただきました。

自分の登山経験・技術そしてお酒の量、どれもがまだまだ発展途上ではありますが、今後の道岳連の研修会や事業に積極的に参加しながら学び、会の仲間との山行を通して安全な登山を追求し、そして自分に教えてもらった「山の楽しさと厳しさ」を自分から積極的に広げていけるように、これから頑張っていくことを再確認することができました。

秋の「研修所納め」にも都合をつけて参加して、「ちょっとは頑張っているぞ！」というところを見ていただけるよう自己研鑽に励みたいと思います。すてきな春の日高の山歩きと山の仲間との楽しい交流の時間でした。どうもありがとうございました。

夏期遭難対策研修会 5/24-25　大雪青少年交流の家・十勝岳

5 月 24・25 日の両日、大雪青少年交流の家において 13 名で残雪期の安全登山のためアイゼン登

行やピッケル制動の研修を行いました。ほとんどが積雪期にアイゼンやピッケルの未使用経験者が参加し、初日目は室内において、委員長からここ数年遭難事故が増加傾向にあることや滑落と死亡事故の実態について報告されました。講義は仲井指導員からピッケル・アイゼンの種類と使われる用途について話され、続いて為野指導員より実践的ピッケルの持ち方や転倒時の構え方、アイゼンの調整と装着方法が行われ、参加者は実際の雪面を想定し真剣に学んでいました。

説明する仲井講師

二日目は、9 時より雪渓の残る十勝岳望岳台の沢において雪上訓練が行われ、雪の斜面を登山靴のみで歩行する訓練や、上り下がりのピッケル使用や急斜面でのアイゼン装着の注意、歩き方のほか、滑落停止などを実践した。また、転倒しないよう歩くことの重要性も学習しました。

急な斜面での歩行訓練

現在はワンタッチアイゼンや雪が付着しにくいアイゼン等があり、道具の進化が見られる。

午前の研修は終了し、指導員講評の後解散となりました。数日後、実際の登山において、この研修が役立ったとの参加者よりの連絡が寄せられました。

（報告者　　遭難対策委員長　斉藤 邦明）

登攀技術研修会　　6/1　　室蘭チャラツナイ海岸岩壁

蝦夷梅雨に入る前の真夏本番を思わせる晴天に恵まれた 6 月 1 日(日)に室蘭地球岬周辺チャラツナイ海岸の岩壁に於いて登攀技術研修会を実施いたしました。

今回の参加者は 5 名、講師スタッフが 5 名と些か参加者が少なかった感がありますが、講師と参加者のやり取りに距離感がなく、日差しの暑さと研修の盛り上がりで一層暑い一日になりました。

昨年は研修会において 2 件の事故が発生しており、その反省に立ち今回の登攀技術研修会に備え事前に整備を行っていただいた登別山岳会の皆様のお蔭で無事に研修会を終了できたことにお礼を申し上げます。

7 時 30 分に集合場所で開会式を行い、全員が昨年の事故の教訓を胸に気を引き締めて研修場所に向かったのでした。

暑い日差しの照りつける海岸で、早速講師より「クライミングギアの取り扱い」についての説明やら注意事項諸々の講義が始まり、次に「ロープワーク」については各自に渡された 3m×9Φロープを使って実技を進めていきました。「懸垂下降」については、昼食を挟んで納得の行くまで質疑応答等が熱心に交わされ、有意義な時間が費やされました。後半、各自講義内容を確認すべく 2 班に分かれてクライミングと懸垂下降を予定終了時間 15 時一杯迄実技研修を行いました。

第２会場の芽登は参加者不足のため中止になり、講師の滝沢氏は遠く斜里から駆けつけてくれま

した。今回の参加者とスタッフの皆様お疲れ様でした。今後はもっと参加者が増えてくれることを期待しています。この研修会の技術が実際の登山の中で生かされれば幸いであります。また、参加者の皆様はそんな登山を目指してもらいたいと思います。

（報告者　指導委員会常任委員　石川 孝一）

平成２６年度 登攀研修会に参加して　　登別山岳会　相馬 範昭

６月１日に行われた登攀研修会に参加させていただき、色々勉強になりありがとうございました。会場になったチャラツナイ海岸での研修会は何度か行っており、私の所属している登別山岳会のホームゲレンデです。

前日には浮石の処理と古いアンカーロープのチェック等を行い、現状でできる事をやりました。

７時 30 分に室蘭地球岬駐車場に集合し、メンバーを確認、会場のチャラツナイ海岸駐車場でそれぞれ準備をして開会式を行う。講師の藤木さんより「安全第一で研修をやりましょう」との話があり、装備を身につけチャラツナイ海岸へと向かう。海岸に到着後、早速講師の石川さんよりクライミングギアの扱い、ロープワーク、クライミング、懸垂下降等の全般の説明があり、昔はこのようにやっていたが、現在は違うことがあるので、よく確認しながら操作するよう指導を受けました。

石川講師は 20 代からクライミングをはじめていたようで詳しく、親切に指導をいただきありがとうございます。青空の下での説明も終了し今回は西岩峰群引き潮フェース隣とＡフェースの二つの班に分かれてクライミング研修を行う。私は引き潮フェース隣をトップロープで登り懸垂下降で降りたのですが、講師の方よりアンカーとセルフビレーは大事なポイントなので、確認の確認を行うことが重要であると説明があり、さらに気を引き締めました。

Ａフェース班も同じような行程を無事終了し、記念写真を撮って駐車場へと向かい閉会式を行う。

今回の研修にあたり遠くから駆けつけていただいた講師の方を含め有難うございます。今回の研修で得たことを所属の山岳会に持ち帰り伝達したいと思います。有難うございます。

スタッフの感想 … 指導委員会運営委員　藤木 たか子

昨年の事故以来、安全に安全を期しての下準備、整備に携わった方々ご苦労様でした。

新指導委員長も「トラウマ」との闘いではあったが、天候にも恵まれ石川副指導委員長の青空講義の中、少数精鋭で無事事故なく研修を終了いたしました。滝沢講師の最近情報など身になるワンポイントを教えて頂き有難うございました。

沢登り・登攀研修会　6/29　登別市鉱山町滝沢コース

函館や新得、地元登別から合計 20 人の参加を得て、本研修会を実施しました。登別市鉱山町にある「滝沢」に入るゲート前にて、渓流シューズやハーネスの装着、カラビナやロープの点検など沢

登り用具の確認を行うとともに、用具の使い方について 20 人を 3 班に分け、それぞれの班ごとに研修しました。

準備運動の後、約 25 分間林道を歩き入渓しました。入渓後は、班ごとにコンパスの使い方を復習、ルートファインディングの重要性を復習するとともに、沢を歩くときにはフラットに足を置き、浮石などに注意するよう指導しました。Ｆ４及びＦ５において、エイトノットやブリッジプルージックなどロープ結びを反復、フィックスロープを設置後、プルージックを使用した登下降を繰り返しました。また、新たな箇所に支点をつくり、懸垂下降を繰り返しました。

当初予定していた研修項目をすべて実施し、参加者の技量の向上に役立ったものと思います。転落や滑落などの事故を起こすことなく終了しました。

（報告者　指導委員会常任委員　澤田 時人）

平成２６年度 沢登り登攀研修会に参加して

登別山岳会　小川 智靖

6 月 29 日沢登り・登攀研修会に参加しました。大変勉強になりましたので、内容について少しご紹介したいと思います。

8 時登別市見晴公園に集合、参加者には昨年の山岳指導員検定で一緒だった仲間もいる。装備を身に着けてから開会式。昨年度の本研修で事故が起きたことを踏まえ、安全第一でやるようにとの藤木指導委員長から挨拶があり、参加者一同気を引き締める。

開会式が終わるとそれぞれのレベルに合わせ、３つの班に分かれ、講師から注意・心構えなどの指導を受ける。車に分乗し、滝沢へ移動する。滝沢は私の所属する山岳会ではよく沢訓練に使うところで、その名の通り大小多くの滝がある沢である。30 分ほど林道を歩いた後入渓する。

地形図、遡行図を見ながら歩く。出合のたびに現在地を確認し、読図訓練。ここは○mの出合だ、いやそうではない沢が屈曲してないのでここは△mの出合ではないか、など活発な意見が出て、いいムードである。Ｆ１、Ｆ２、大岩を過ぎるとＦ３、Ｆ４が出てくるが、Ｆ２～Ｆ４は遡行図と位置関係が違っている。遡行図より地形図を信用しよう。

Ｆ６手前の釜で研修生２名のへつりを見学して引き返す。少し下り、枝沢から落ちる滝のところで懸垂下降の訓練、訓練前に石川講師の指導を受ける。懸垂は６月１日の岩研修でやったはずだが、バックアップのブリッジプルージックが効きすぎ、下るのに一苦労。バックアップ用のスリングが長いため、巻く回数を多くしたところ効きすぎてしまったようだ。気温が上がらず、全員が下る頃には体が冷え切っていたが、みな満足そうな表情。

今回の訓練で勉強になったことが数多くあったが、中でも石川講師の「登山にはこれが正解と言うものは無い。この方が安全、でもこうした方が操作は早い、ということがあるので状況に応じて判断すること」という一言は心にしみた。

道岳連の訓練以外にもこうした訓練を受ける機会は何回かあったが、教科書的なことしか教えず、実践はまた違う、と言ったことが少なからずあったからである。講師、リーダー、サブリーダーの方々を始め関係の皆様方には厚くお礼申し上げます。山岳指導員として、学んだことを所属山岳会だけではなく、広く山・沢を愛する人にも伝えていきたいと思います。

沢登り登攀研修会に参加して(2)　　函館あすなろ山岳会　吉岡 幹子

6 月 29 日の沢研修にＢ班として参加しました。沢は季節限定だし、歳もそうだし、連れて行ってくれる人も中々いないし、唯一、道岳連の沢研修が私にとって「行ける時に行かなくちゃ」という気持ちです。

以前に漁川の沢研修で滝を登った時もそうだったし、とにかく楽しい！ です。昨年チャラツナイの岩に登ったとき指導員の方に「岩が好きなんですねー」と言われて、私は「はい、好きです」と答えた。でも一本しかやらないのに判るのかなあ。と不思議だった。

参加する度に、会場に着く度に、皆が猛者(もさ)に見え ドキドキしてしまうのだけれど、沢に入ってしまえば皆で楽しくやれる。

ロープワークもすぐに忘れてしまうのだけれど、沢で転げても「あ～皆転げるんだー と、これがいい」沢も岩も山に登るとは違う。

達成感、快感というか、山に登るだけじゃ味わうことの出来ない醍醐味と言うのでしょうか？　これでしょうか？魅力は？ 又、参加できるのを楽しみにしています。

ご指導ください。　ありがとうございました。

女性リーダー研修会　7/19-21　トムラウシ～オプタテシケ縦走

今年度で３回目を迎えた女性リーダー研修会「パワフルレディーズ」、今年は７月１９日～２１日に２泊３日で、トムラウシ山からオプタテシケ山縦走を計画する。当初交差縦走を予定したが、非常時の対応が厳しいと判断し、全員で一方向からの縦走に変更。スタッフを含め７名が参加する。

１日目は屈足レイクイン駐車場に集合、そこで共同装備の分配やパッキングを行う。その後トムラウシ短縮登山口に移動。３連休ともあって、既に４０パーティ以上の登山者が入山していた。装備や行程、安全登山について確認し合い、準備体操後、約１５㎏前後のリュックを背負って出発する。天気は曇りだが、上川・北見方面は晴れの予報に期待を膨らませ。湿った登山道に足を取られながらも会話が弾み、余裕の表情で高度を上げていく。

コマドリ沢の冷たい雪解け水で汗を拭き一息つく。ここから右沢筋の雪渓を登る。ガレ場の斜面に取付くころから本来なら展望が開けてくるはずだが、残念ながら雲の中。だがこのあたりからお花畑が始まり、花に癒されながら前トム平・トムラウシ公園を過ぎ、６時間３０分で南沼キャンプ地に到着する。キャンプ地は既に３５張り強のテントが張られており、何とか２張り張れる場所を探しテント設営。

役割分担し夕食の準備にかかる。手巻き寿司と麻婆春雨の豪華なメニュー、標高 1960m地点での

テント泊と、今日一日の汗に乾杯し夕食を摂る。ガスが引いて夕日に染まったトムラウシ山頂が見えた時は歓声を上げ、明日の天気を信じて各々のテントに入る。深夜の満天の星空に明日の好天を確信する。

２日目はトムラウシ山の頂上を踏み、その後双子池キャンプ地迄の１２㎞の行程。朝起きると快晴。朝食を済ませ青空の中を一気に山頂へ。頂上からは３６０度の展望、青空と真っ白な雲海から頭を出している大雪山系や十勝山系の山々に感動。これから進むオプタテシケ山の雄姿やそこに続く稜線も見え、今日一日の行動に意欲が涌く。下山後テントを撤収して出発。急斜面を下って行くと、南沼のエメラルドグリーンの輝きに癒される。そこから平坦な道を進むと黄金ケ原につく。イワイチョウは見られなかったが、チングルマの花畑だった。三川台あたりから先の稜線は、十勝側から上川方面に稜線を越えて流れていく雲で展望がきかなくなる。ツリガネ山・コスマヌプリ頂上は巻いて通過。兜岩を過ぎてあとは本日の幕営地、双子池に向かってひたすら歩き、出発から８時間で到着する。

快晴のトムラウシ山山頂

噂には聞いていたが荒れたテン場に唖然とする。みんなで協力し夕飯の準備を始める頃から小雨が降り出し早々に食事を済ませ、翌日の悪天候の不安を抱えながら就寝。夜半はテントに雨の叩きつける音が激しく鳴っており、さらに不安が増し、ウトウト状態で朝を迎える。

３日目３時起床、少し雨は治まり霧雨となったが、テントの周りは泥んこ状態。テントの中で行動食を摂り、早々にテントを撤収し出発する。オプタテシケ山頂に向け標高差 600mの登り。高度を上げていくと徐々に雲の上、青空と足元の雲海に歓声が上がる。２時間強でオプタテシケ頂上に到着する。ここで朝食を摂り休憩する。あとはひたすら下山。ベベツ岳・石垣山を過ぎる頃から徐々に疲労も出てくる。ガレ場を通過する時にケルンを作って気を紛らわし、「もう少しだから頑張ろう～」と、お互い励まし合いながら歩く。美瑛富士避難小屋から約３時間で涸沢林道登山口に到着。最後の登山口までの作業道約 800mは、下山した安堵感と暑さや疲労で誰もが無言となり、登山口の看板と一緒に美瑛山岳会の内藤さんの姿が見えた時は胸が熱くなるほど感激。そして冷水とメロンの差し入れに、みんないっきにメロンにかぶりつき、そして水を飲み干し、生き返るかのように身体も心もいやされたのだった。

総距離約３０㎞、総行動時間２３時間、標高差登り 2400m、下り 2450m。想像以上のハードな行動と体力が必要な山行であったが、お互いの知識を共有し協力し合いながら、最後まで参加者７名全員が元気に完走することができた。見守って下さった皆様と、計画の段階からたくさんの情報を提供してくださった美瑛山岳会の内藤さん、差し入れを提供してくださった美瑛山岳会の皆様に感謝とお礼を申し上げます。

（報告者　指導委員会常任委員　下山 シゲ子）

初めてパワフルレディースに参加して　　ロビニア山岳会　神野 恵子

パワフルレディーと言えば、上級の山を重いザックを背負って登るというイメージがあり、とても自分には参加できないと思っていました。今回は同じ山岳会の先輩から誘っていただいて、「おや？ 私でも行けるってことですか？」と参加申込に至りました。ところが、地図に磁北線を書き込み、コンパスを切りタイムを書き込んで行くうちに、「これ私行っていいのか！？」

と、あっと言う間に不安になってしまいました。

今回の行程は「トムラウシ山短縮登山口～南沼キャンプ場～トムラウシ山～コスマヌプリ～双子池キャンプ場～オプタテシケ山～ベベツ岳～美瑛富士避難小屋～美瑛富士登山口」です。各自 15～16 キロは背負って登ることになります。

１日目は 9：50 登山口を出発、重いザックにあっという間に汗が吹き出します。しかしそこはパワフルレディー、全員分の美味しい煮玉子などが個人のザックから出てきてふるまわれます。短く休憩しつつコマドリ沢に到着したのが 13：25。さすが三連休のトムラウシ、雪渓を尻滑りして楽しんだ女子大生など、たくさんの登山者がいました。今にもハイジが出てきそうなお花畑の連続で花に励まされながら、16：20 南沼キャンプ地に到着。ガスがかかって肌寒いテント場は、すでに一杯でした。なんとか二張りして夕食は手巻き寿しとマーボー春雨！ 本当に美味しかった！そうこうしているうちにガスが晴れ、トムラウシの山頂が姿を見せました。トムラウシ山は私にとって「いつか力量がついたら挑戦しよう」と考えていた山でした。そのトムラウシ山に明日行けるんだと思うとうれしい思いが込み上げてきました。

トムラ南沼野営指定地

２日目、テントや荷物はそのままで(5:47)山頂を目指します。晴天で眼下には雲海、これから目指すオプタテシケ山がひょっこり雲から頭をのぞかせていました。トムラウシ山頂は 6：17、それぞれが風景を満喫して写真を撮って下山。テントを撤収して・・・またあの重いザックが待っていました。南沼は沼底に雪が残りペパーミントの綺麗な姿で私たちを涼ませてくれました。ツリガネ山とコスマヌプリは山頂が登山道から離れていて眺めて通過。アップダウンを繰り返しながら双子池に到着したのが 15：40、キャンプ場のコンディションは良いとは言えないものでしたが、スタッフの方が事前に十分な情報収集をして下さったお蔭で準備も万端に整えてあり、トラブルはありませんでした。美瑛山岳会の内藤さんに、かなり詳細な情報をもらっているのだと聞きました。事前に聞いたという登山道の様子がそのまま出てくる度に、山岳会同士がこうやって繋がって、情報を交換しあえることの良さを実感しました。また、険しい登山道を美瑛山岳会、新得山岳会が整備をしてくれているからこそ、こんな私でも重い荷物を背負って登ることができるのだなと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。どの山においても各山岳会が愛情をもって整備しています。私は山岳会に入るまでは「登山道は人がいっぱい歩くからできているんだ。」と思っていました。まさかその地方の山岳会によって笹刈りされているんだなんて思っていませんでした。それどころか石を運んで敷き詰めたり、木道を作ったり、危険個所にはロープを張ったり、皆さん本当にありがとうございます！

二日目の夜は、カレーライスと海藻サラダ。デザートにはパンプディングまで！ 疲れた体を癒しました。歩く姿はかなり近づかないと、他の登山者に女性だとわからないようでいたが、やはり食べることを楽しもうとするこういう場面で「やっぱり私たちレディーだなぁ」と、実感しました。「えっ！女性ばかりなんですか？」と、すれ違い様に何度言われたことか。軽量で美味しい食事、勉強になりました。

三日目は行程の遅れも予想して出発時間を早めました。4：55 行動食を食べて出発。テント場では霧雨でしたが、登り始めるとすぐに雲海の上に出て晴天となりました。オプタテまでの登りは三日分の疲れを実感するものでした。しかしそこから「ケルン合戦」が始まりました。

先頭から順番にケルンを積んでいき、崩した人が下山後に皆に炭酸をおごるというもの。わざと次の人に難しい石を選んでみたりするうちに、盛り上がり疲れを忘れて山頂に到着(7:15)していました。山頂で朝食です。アルファ米と昆布の佃煮、梅干しをパリパリの海苔に巻いておにぎりです。私は背負ってきた人以上に食べてました。山頂でのおにぎりは最高でした！ ここで 40 分の休憩後、最後の登りベベツ岳へ。ベベツ岳の山頂には 9：08 到着。ここから見たオプタテは大きかった！ キツイはずだよ！ 「下山は長いわよ～」と先輩たちは口々に言ってましたが… 相当でした！ もうヘトヘトで美瑛富士の登山口に到着したのが 13：38.喉はカラカラ、足はガクガク。するとそこに、にっこりとたたずむ紳士が。美瑛山岳会の内藤さんでした。「美瑛山岳会からです」と全員分のヒエヒエの水と、贅沢に切り分けられたヒエヒエのメロンが用意されていました！！ 私はむさぼり付きながら本当に泣くかと思いました。改めて山岳会同士のつながりに感激しました。

オプタテシケ山山頂直下を行く

そして、一緒に登った先輩パワフルレディー達にも脱帽です。私はともかく足手まといにならないことを目指して､我慢せず､自分の体調調整をしっかりやろうといったレベルでしたが､皆さんは私より更に思い荷物を背負って､テン場に着いても一息つくことなく働いていました。すごいです。帰りのお風呂では体中泡が立つまで三回かかりました。すべてが素晴らしい経験でした！ 皆さまありがとうございます！

夏山講習会 part Ⅰ 暑寒別岳　　7/5-6 箸別コース

普及事業「花の暑寒別岳」 … 地元増毛・留萌両山岳会の協力実現

道岳連の普及事業(山岳会に所属してない山の愛好家、山の初心者に、山の楽しさ、安全登山を普及する)第 1 弾「花の暑寒別岳」は、7 月 5 日～6 日一般参加 21 名、スタッフ 7 名、現地山岳会サポート 10 名で実施した。

初日は江戸時代の末期､海に阻まれた地域の情報交換や交易の道路として開削された「増毛山道」トレッキングを付録に付けた。その保存と活用に当たる NPO 増毛山道の会(多くは増毛山岳会会員)小杉忠利さんから道々、暑寒別岳エリアの厳しい地形から生まれた山道の歴史や、山道の山岳文化的価値を学ぶ。宿泊先では、増毛、留萌の名峰・暑寒別岳の登山史、自然情報のあれこれを増毛山岳会会員・五日市忠二さんから、そして、暑寒別岳の高山植物を大学で生態系講義を持つ山下由美さんから、いずれも経験に裏付けられ、専門研究を通しての話だけに奥が深く面白い。しかし、参加者は午前中からの知識の詰め込みで頭が疲れている様子。次に移る。

海の町ならではの海鮮バーベキューの登場である。留萌

山岳会会員の皆さんが付きっ切りで焼いてくれる。銘酒・國稀も出てくる。海に沈む夕日は見られなかったが、どんよりとした大海原を眼下に、みんなよさ気に酔い、明日の登山に話が弾む。

二日目は4時起床、5時交流センター発。30人が各自の車で早朝の留萌市内をパレード？ 花のコース箸別登山口に向かう。散々脅かされた虫対策の装備を整える。3班編成、班ごとにまとまって歩む。留萌山岳会、澤前会長ほかの増毛山岳会パーティがラストを務める。平坦な道から勾配が増す頃、雪渓が現れ、7合目、標高1200m過ぎには見事な花の群落に達する。今年は5月の高温で雪解けが早く、その後の降雨も適当で、花が山頂までびっしりと続いている。実に見事、百花繚乱とはまさにこのこと。花講師の山下さんから、花の名前の由来等の説明を受ける。花も虫もすべての生き物には名前がある。と今更ながら感心。極めつけは暑寒別岳固有のマシケゲンゲの群落だ。つるマメ科で雲が紫色に染まりたなびくような有様がゲンゲ？ ともかく、登山道の両脇は見渡す限りの高山植物、種類も多い。その可憐さに酔いしれる。写真を撮り撮りのんびり登り。それでも目標時間には全員が山頂に立つ。講習会リーダー(相馬指導員、渡邊指導員)ならではの統率ぶりが光っていた。帰路も予定時間内で、一人のけが人もなく、一般募集の講習会は盛会のうちに終わる。次回は7月25日のトムラウシ山、すでに定員に達しているが、コースは長いので早立ちしよう。

マシケゲンゲ

（報告者　普及委員会委員長　秋元 筇男）

暑寒別岳(1491.4m)山頂

参加者の感想 ①　札幌山の会　T・Kさん

今回の一泊二日の企画は、無駄のない有益な充実した山行であったと大変満足しております。念願の暑寒別岳を満喫させていただきました。

１班のリーダー登別山岳会の相馬さん、高山植物の山下女史、増毛山岳会五日市さんの印象に残った講話、それに同じ班であった神山道岳連理事長の道々のちょっとしたコメントなど、さすがと思える経験談が聞け、改めて山の魅力を感じた次第です。

更に、私にとって近年まれにみる海鮮バーベキューに圧倒されました。ホタテ、タコ、甘エビの刺身、ホッケ、サンマ、イカ、ハタハタ、ジンギスカン、ホルモンなど新鮮さとボリュームで満足いたしました。また、シカ肉までも食することができました。

留萌・増毛山岳会有志の方々の心のこもった「おもてなし」のたまものです。同時に、地元山岳会の我らが山「暑寒別岳」をこよなく愛しているのが、よくわかりました。

参加者の感想 ②　　札幌山の会　Ａ・Ｈさん

道民ですが、増毛山道のこと初めて知りました。バスの中での予習復習は実際の山道歩きにとても役立ちました。

座学講習では、四季折々の暑寒別岳や青年時代から歩いてきた話を興味深く聞くことが出来ました。クイズ形式の高山植物スライドショーは楽しかったです。

本題の暑寒別岳登山は、花曇りに恵まれ期待の花が斜面一面に咲き誇り大満足でした。高山植物のたくさんの名前・詳しい話を聞きながらの登りは、疲れも忘れ嬉しい時間を感ずることができました。

『日本百名山俳句集』　著者・栗田希代子の故郷の山としての暑寒別岳の句

頂上を極めて涼し暑寒岳　　去り難し増毛げんげに振り向かれ

とても印象に残っている句です。同じ時期に登ることが出来、増毛げんげがとても輝いて見えました。

増毛山道の本の一部を歩いて開削復元の苦労を思う　　えぞ山逍会　神山　健

「増毛山道の会」みなさんに先導されて山道に踏み込んだ途端、私は思わず声を上げた。

「こんなにきれいに整備されているなんて！」

１ｍくらいの道の両側の笹や雑草が幅３ｍくらいきれいに刈り払われているのだった。手で掻き分けることもなく実に歩きやすい。増毛町別苅から岩尾まで 16 ㎞余りの山道の開削整備に２年の歳月をかけたという。昭和に入って廃道になった増毛山道を、かつて武好(ﾌﾞｮｼ)駅逓へ通じていた電信線の残骸を辿って足探りで道を特定し、160ｍ毎に目標を打って開削復元に努力したという。

私は山道の会の人たちの苦労と努力を思いながら、一歩一歩山道の道を踏みしめて行った。確かに見晴のいい場所はなかった。目立つ花もなかった。しかし、この消えていた歴史の道を踏めるだけで満足だった。

北大山岳部の創始者の伊藤秀五郎(ﾋﾃﾞｺﾞﾛｳ)の「北の山」に収録された「雄冬山付近の山道と漁村風景」の文を読んで、どんなところだろうと長い間想像していた山道である。

電信線の残骸

朽ちかけた何本かの電信柱を数えながら 50 分、武好駅逓に着く。間取りに従って縄張りされた駅逓は柱の穴しか残ってなかった。山道の会副会長五日市さんの説明で往時を偲ぶ。すぐ傍らに小流があることが駅逓の場所に選ばれた理由だという。少しく伊藤秀五郎の文を借りる。

〈 しかし、道はあっても人の往来は極めて少ない。雄冬と増毛から上がる逓送人が毎日一回この駅逓(武好駅逓)で落ち合って、郵便物を交換して帰るという昔ながらのしきたりを反復しているほかは、たまたま増毛の町に用足しに出た村人が立ち寄るくらいのものである。泊りの客となればなおさらだ。山地の夜に迫られて泊まることを余儀なくさせられた貧しい行商人か、落魄れした旅芸人か、さもなくば私たちのような気まぐれな旅行者が、時たま薄っぺらな手帖の旅客名簿に、其年其月と鉛筆の跡を残していくばかりである。そしていまだに文明的な交通網から取り残された、静というよりはむしろ寂しいその山路と、しっくり調和した昔造りの駅逓の建物は、駄

馬の背を借りて駅逓から駅逓へと泊っていった北海道の昔の旅の風習などをおのずから想い出させる 〉昭５＝1930.10 記

誰かが「ビールがあったぞ」と声を上げ、探し出した古いビール瓶を掲げていた。

秀五郎は大正 12(1923)年以来度々この武好駅逓を訪れたという。彼曰く「暑寒別山塊の山歩きの最初の夜を過ごすべきただ一つの旅舎」だったのである。このビール瓶は、かれらの山の夜の楽しい宴で飲まれたものだろうか。

秀五郎がこの文を書いた前年の冬には朽ちかけてはいたが、まだ番人がいたという。それから約 90 年、この駅逓は跡形もなくなっていた。果たして風雪に吹き飛ばされたか、はてまた朽ちて土となったか。山道を掘り起し、駅逓跡を見つけ出して復元した山道の会の人たちの意欲と根気、熱気にただ脱帽するのみ。

夏山講習会 partⅡ　トムラウシ山　7/25-27

平成 26 年度夏山講習会の第二弾は、7 月 25 日から 27 日までの三日間、トムラウシ山、トムラウシ温泉で開催、参加者は 27 名(一般 13、会員 8、スタッフ 6)で実施した

道岳連一般事業の共通テーマは「もっと深い山を見たい」。その趣旨に沿って、夏山講習会二回目は「トムラウシ山」が選ばれた。参加者には、長距離行程をなるべく疲れないで歩く技術、豊富な高山植物に代表される自然環境の見方等、今回の登山の中で少しでも身に着けてほしい。という願いを込めた。また、チーム登山の楽しさを感じてもらうことも課題とした。普及事業一回目「暑寒別岳」同様、トムラウシ山をよく知る地元・新得山岳会に全面的な協力を仰いだ。

7 月 25 日(金) 14:30 トムラウシ温泉東大雪荘で開講式。小野会長の開講挨拶のあと、トムラウシ山の 100 種類の高山植物と、距離が長い登山コース及び登山の留意点を地元新得山岳会荒堀、太田、山川各氏から紹介と説明を受ける。参加者の 8 割以上が初めてのトムラウシ山だけに真剣な空気がただよう。

7 月 26 日(土) 3:50 宿舎を出発し 4:40 には短縮登山口を出発する。ＣＬ兼 1 班Ｌ山川明男、2 班Ｌ澤田春佳、3 班Ｌ荒堀英雄の三班編成。各リーダーとも登りを 6 時間 30 分と予定していたようだが、6 時間で頂上到着。下りは後半強い雨にたたられ、加えて評判の悪道で 5 時間の予定が 5 時間 30 分。それでも、ゆっくり花を眺めることができた。26 人全員登頂はリーダーとチームワークの成果と言える。

コマドリ沢の残雪を歩く

花の行動記録 … 荒堀 英雄(３班リーダー)

歩き出して間もなく目に入ったのはエゾイチヤクソウさらに時期遅れのゴゼンタチバナ、マイヅルソウなど。沢筋に入るとウコンウツギ、エゾコザクラ、前トム平ではイワブクロ、チシマツガザクラ、チシマキンレイカなどが出迎えてくれた。

トムラウシ公園は花園で、ミヤマキンバイ、エゾノハクサンイチゲ、トカチフウロ、イワイチョウなどポピュラーな花々が満開。山頂に向かう登りでは、高山植物の女王コマクサをはじめエゾツガザクラ、アオノツガザクラ、チシマギキョウなどなど、辛い登りも可憐な花々で癒される。近年コマクサが増えたのには驚きでした。

また、雪渓が後退した跡には、キバナシャクナゲ、チングルマなどが咲き乱れ、他の山では既に散っているミネズオウ、過去に見たことがなかったタカネシオガマなどを発見した時には歓声が上がった。

タカネシオガマ

スタッフ報告 … 山川ＣＬ・澤田２班Ｌ

夏山講習会「トムラウシ山」参加のみなさんお疲れ様でした。

天候には恵まれませんでいたが、山頂から雲間に十勝連峰(オプタテシケ、美瑛、十勝、境山)、旭岳、白雲、化雲の頂が姿を見せいてくれました。しかし 360 度のパノラマは次回の楽しみになりました。復路は雨に打たれての下山で辛かったでしょうが、この経験は今後の山行に必ず活かされます。平素の生活を通し心身の鍛錬、読図などを習得し、原生の美が残された東大雪の山々を再び訪れ、リフレッシュを計り、そのことで明日からの活力の源になると思います。(山川)

２班のリーダーとして参加しました。特にアクシデントもなく、全員登頂、無事下山できて何よりでした。下山途中に雨が降り出し、土砂降りの中、川のようになったドロドロ道を歩きました。雨天時には山に行かないことが多いと思うので､みなさんいい経験になったのではないでしょうか。私ももっときちんと濡れ対策をしなくてはと反省しました。

我々スタッフをガイドと思っている参加者(一般参加者)が結構いました。いわゆるガイドとは違うよな～と、かなり違和感を覚えました。最初のオリエンティーションで「スタッフはいわゆるツアー登山ガイドではありません。これから経験を重ねて仲間と山に行くときに、リーダーはどう行動すればよいかを学ぶ、参考にする、という対象にしてください」という注意喚起があってもいいなと思いました。(澤田)

★参加者の感想は、道岳連ＨＰ普及委員会のページを参照ください。

ジュニアとざん教室 2014　8/2-3　日高登山研修所・北日高岳

日山協ジュニア育成事業で道岳連が主管する「ジュニアとざん教室 2014」は、８月２日-３日の両日、日高登山研修所と北日高岳で開催した。

一日目は 12:30 に開校式、翌日の登山の注意事項の説明の後、体育館のクライミングボードを使用してのクライミング体験、研修所向かいのチロロ・ルピガーデンを見学、夕食後は花火を楽しみ参加者とスタッフが交流を深めた。

二日目は、日高市街地近郊の「北日高岳」の登山。今年は 2 時間 30 分で頂上に到着、天候に恵まれ頂上からの展望を楽しむ。参加者 5 名、スタッフ 6 名。

(報告者　ジュニア委員会委員長　八柳 正史)

クライミング体験

北日高岳山頂

第１回ジュニアスポーツクライミング奈良杯

兼 JOC ジュニアオリンピックカップ北海道予選会 6/8 美唄市体育センター

北海道のクライミングの普及に大きな足跡を残し、昨年逝去された奈良憲司さんを記念する第 1 回ジュニアスポーツクライミング奈良杯は、JOC ジュニアオリンピックカップ北海道予選会を兼ねて、ゆかりの美唄市体育センター(旧美唄工業高校体育館)で開催され、57 名が参加した（ジュニア男子 24 名、ジュニア女子 6 名、ビギナー27 名）

大会成績（各種目上位 3 位まで掲載）

◎ジュニア男子	◎ジュニア女子	◎ビギナー
1 位　武者　知希	1 位　亀田　桃子	1 位　伊賀　史也
2 位　松浦　　凌	2 位　菅原　未紗	2 位　関根　渓人
3 位　岸本　武蔵	3 位　佐藤いぶき	3 位　宮崎　法瑠

第 17 回 JOC ジュニアオリンピックカップ代表選手

	氏　　名	学　校　名	学年	カテゴリー	備　　考
男子	武者　知希	江別高校	2 年	ユースＡ	日山協推薦選手
	松浦　　凌	遠軽高校	3 年	ジュニア	日山協推薦選手
	岸本　武蔵	美唄尚栄高校	2 年	ユースＡ	
	白戸　隆雅	札幌真栄高校	2 年	ユースＡ	
女子	小武　芽生	北星学園女子高校	2 年	ユースＡ	日山協推薦選手
	亀田　桃子	遠軽高校	3 年	ジュニア	
	菅原　未紗	遠軽中学校	3 年	ユースＢ	

☆本大会は　8 月 2-4 日　富山県南砺市で開催される

第 69 回国体山岳競技北海道ブロック予選会

兼 平成 26 年度 北海道体育大会山岳競技会　7/19-20

国体予選会は、平成 26 年度北海道体育大会山岳競技を兼ねて、7 月 19 日リード競技が北海道立総合体育センターで、20 日ボルダリング競技が札幌ノースケイブジムで開催された。

種目別全参加者数（1 種目参加の選手 中学 2 年以下の選手も含む全参加者）

種　目	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	ビギナー	キッズ	合　計
リード	9	5	３５	１７	１２	7	８５
ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞ	１２	6	３５	１７	１４	0	８５

種目の競技結果（上位３人まで掲載）

ボルダリング　少年男子			ボルダリング　成年男子		
1	松浦　　凌	遠軽高校	1	古坂　賢太	
2	高木　智和	札幌工業高校	2	梅津　恒平	ウィップス
3	岸本　武蔵	美唄尚栄高校	3	國谷　斗馬	

ボルダリング　少年女子			ボルダリング　成年女子		
1	佐々木 里穂	北海学園札幌高校	1	一安　瑛子	
2	亀田　桃子	遠軽高校	2	田部千絵子	
3	佐藤いぶき	札幌市立中の島中学校	3	塚野　萌美	酪農学園大学

ボルダリング　ビギナー		
1	野田　銀我	遠軽高校
2	菊池　拓弥	遠軽高校
3	宮崎　法瑠	比布町立比布中学校

リード　少年男子			リード　成年男子		
1	松浦　　凌	遠軽高校	1	奥谷　和也	
2	武者　知希	レインボークリフ	2	國谷　斗馬	
3	白戸　隆雅	札幌真栄高校	3	西村　　望	酪農学園大学

リード　少年女子			リード　成年女子		
1	佐々木 里穂	北海学園札幌高校	1	一安　瑛子	
2	亀田　桃子	遠軽高校	2	田部千絵子	
3	佐藤いぶき	札幌市立中の島中学校	3	中西　育恵	

リード　ビギナー			リード　キッズ		
1	野田　銀我	遠軽高校	1	井上　桜花	札幌市立三角山小４
2	松永　健也	八雲高校	2	坂本　大河	札幌市立常盤小６
3	谷口　　翼	遠軽高校	3	皆川　莉子	札幌市立豊園小５

第 69 回国民体育大会北海道代表選手

成年男子　選手１　國谷　斗馬　グラビティリサーチ札幌
　　選手２　杉本　　怜　早稲田大学４年
　　補　欠　古坂　賢太　ウイップス
成年女子　選手１　一安　瑛子　株式会社 秀岳荘
　　選手２　萩原　亜咲　ウイップス
　　補　欠　田部千絵子　札幌市
少年男子　選手１　松浦　　凌　遠軽高等学校３年
　　選手２　武者　知希　江別高等学校２年
　　補　欠　高木　智和　札幌工業高等学校２年
少年女子　選手１　佐々木里穂　北海学園札幌高等学校３年
　　選手２　菅原　未紗　遠軽中学校３年
　　補　欠　亀田　桃子　遠軽高等学校３年

☆長崎国体（長崎がんばらんば国体）は、10 月 12-22 日開催。山岳競技は 17-19 日　大村市会場

今後の諸行事

第 28 回北海道山岳連盟交流登山大会（室蘭・登別大会）

1. 期　日　平成２６年８月３０日（土）～３１日（日）
2. 会　場　室蘭岳山麓総合公園
　　登山 … 室蘭岳夏道～西尾根下山　ほか６コース
3. 日　程　19 日　13:00　受付開始～開会式～交流会
　　20 日　　各コースにて登山行動　　※申込み締切終了

夏山講習会 partⅢ　十勝岳・美瑛岳・十勝岳⇔美瑛岳

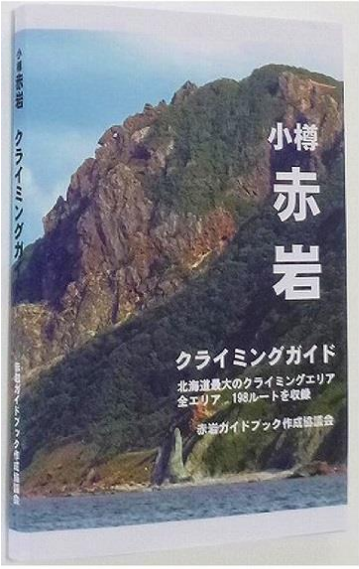
1. 期　日　平成２６年９月６日（土）～７日（日）
2. 会　場　十勝岳・美瑛岳・十勝岳⇔美瑛岳（宿泊　国立大雪青少年交流の家）
　　※申込み締切終了

第６回北海道トレイルランニング大会 in ルスツ

２０１４．９．２０-２１　開催

第 53 回全日本登山体育大会徳島大会

1．期　日　平成２６年１０月１１日（金）～１３日（日）
2．会　場　徳島市　三好市　つるぎ市　美馬市
　　剣山　中尾山　三嶺
　　※申込み締切終了



予約受付は終了しました。お求めは登山用具店で（2,700 円）

道岳連だより　北海道山岳連盟広報　№.７２　平成 26 年 8 月 28 日発行
発　行　北海道山岳連盟　事務所　札幌市豊平区月寒西３条１０丁目２－４８
発行責任者　小 野　倫 夫　編集担当(総務)　内 藤 美佐雄